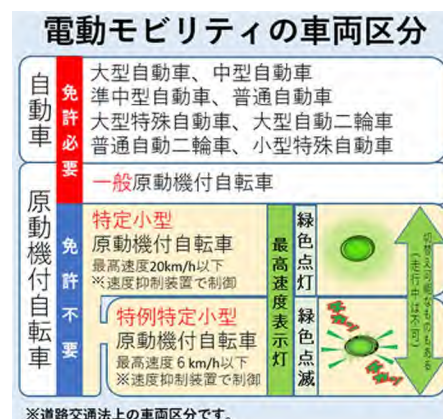


自転車関連施策における社会情勢の変化について

1 これまでに改正された主な施策等（令和2年以降）

- 令和2年6月30日～ 自転車の「あおり運転」を危険違反行為に規定（道路交通法施行令）
 - ・ 他の車両を妨害する目的で執拗にベルを鳴らす、不必要な急ブレーキをかけるなど、自転車の「あおり運転」を危険な違反行為と定め、3年間に2回違反した14歳以上の者に「自転車運転者講習」の受講が義務付けられました。
- 令和5年4月1日～ ヘルメット着用の努力義務化（道路交通法）
 - ・ すべての自転車利用者に対する乗車用ヘルメット着用の努力義務が定められました。
- 令和5年4月1日～ 自転車保険加入の義務化（広島県自転車の活用の推進及び安全で適正な利用の促進に関する条例）
 - ・ 広島県内すべての自転車利用者及び事業中に自転車を利用する事業者に、自転車損害賠償保険加入の義務が定められました。
- 令和5年7月1日～ 特定小型原動機付自転車（電動キックボード等）のルール等を規定（道路交通法）
 - ・ 原動機付自転車は、「一般原動機付自転車」、「特定小型原動機付自転車（以下、特定小型原付）」に区分されました。
 - ・ 特定小型原付については、運転に運転免許は要しないこと（16歳未満は運転禁止）、乗車用ヘルメットの着用は努力義務とすること、道路の左側端に寄って通行することなどが定められました。
 - ・ 特定小型原付の中でも、「歩道等を通行する間、最高速度表示灯を点滅させていること」、「歩道通行中、車体の構造上、6km/hを超える速度を出すことができないものであること」などの要件を満たすものは「特例特定小型原動機付自転車」と位置付けられ、道路標識等により歩道を通行することが可能となりました。
 - ・ 特定小型原付による交通違反は交通反則通告制度及び放置違反金制度の対象とされ、危険な違反行為を繰り返す者には講習の受講が義務付けられました。
- 令和5年11月1日～ 自転車安全利用五則の改正（中央交通安全対策会議交通対策本部）
 - ・ すべての自転車利用者に対する乗車用ヘルメット着用の努力義務化を内容とする道路交通法の改正が行われたことなどを踏まえ、自転車安全利用五則が改正されました。



2 今後施行される主な施策等

○ 道路交通法の改正（令和6年5月17日）

種別	内容	施行時期
自転車	交通反則通告制度（青切符）※を適用	公布から2年以内 （令和8年頃）
	携帯電話使用と酒気帯び運転の罰則を新設	公布から半年以内 （令和6年11月1日予定）
原動機付自転車	ペダル付原動機付自転車について、ペダル等を用いた走行時（エンジン停止時）も原動機付自転車扱いと明確化	同上
自動車	車道走行する自転車の安全確保の義務化（罰則あり）	公布から2年以内 （令和8年頃）

※信号無視、指定場所一時不停止、通行区分違反（右側通行、歩道通行等）、通行禁止違反、遮断踏切立入り、歩道における通行方法違反、制動装置不良自転車運転、携帯電話使用等、公安委員会遵守事項違反（傘差し）など

【参考】特定小型原付（特例特定小型原付）の交通ルールについて

原付及び自転車の定義

項目	一般原付	特定小型原付	普通自転車
最高速度	時速30km以下	時速20km以下 (時速6km以下)	—
定格出力	0.6kw以下	0.6kw以下	—
長さ	—	1.9m以下	1.9m以下
幅	—	0.6m以下	0.6m以下

※（）は特例特定小型原付

乗車時の主なルール

項目	一般原付	特定小型原付	普通自転車
免許証の有無	要	不要 (年齢制限：16歳以上)	不要
ヘルメットの着用	義務	努力義務	努力義務
自賠償保険	要	要	不要
ナンバープレート	要	要	不要

走行場所

道路種別		一般原付	特定小型原付	普通自転車
歩道がない道路 (路側帯あり)	車道	○	○	○
	道路左側の路側帯※ ¹	×	△※ ³	△※ ⁴
歩道がある道路	車道	○	○	○
	歩道※ ²	×	△※ ³	△※ ⁴
自転車専用通行帯（第一通行帯）がある道路	他の通行帯（車道）	○	×	×
	専用通行帯	×	○	○
	歩道※ ²	×	△※ ³	△※ ⁴
歩道・自転車道がある道路	車道	○	○	×
	自転車道	×	○	○
	歩道※ ²	×	△※ ³	△※ ⁴
自転車歩行者専用道路		×	○	○

※¹：歩行者の通行を妨げることなく走行できる場合（特例特定小型原動機付自転車及び軽車両の通行を禁止することを表示する道路標示によって区画されている場合を除く）

※²：道路標識等により普通自転車が当該歩道を通行することができることとされている場合等

※³：最高速度表示灯を点滅させ、構造上最高速度6km/hを超える速度で進行することができないなどの要件を満たす「特例特定小型原付」である場合に限り走行可（歩行者優先）

※⁴：徐行により走行可（歩行者優先）